

# クラリスメールとAppleScript

Release 1.1 Mar,30 2002 Reported by B.S.W.

## 1. はじめに

もう販売もサポートもされていないクラリスメールですが、私のお気に入りのメールソフトで今でも使用しています。Apple社にクラリスメールが引き継がれたときに、AppleWorksに付け加えるなどの情報があり少し期待をしたのですが、バージョンアップもされないままMac OS Xの時代になりました。MacOS Xでメールソフトが標準でついてくることでバージョンアップはないことは明らかです。しかし、今でもクラリスメールほどAppleScriptをサポートしているものは、他にはOutLookExpressぐらいでしょうか？それに、Mac68kで動くものとなれば他にはありません。

このレポートでは、クラリスメールを使った自動巡回をAppleScriptで行う方法を紹介します。

その前に、登録商標は以下のとおりです。

AppleScript, AppleWorks, クラリスメール, MacOS Xはアップルコンピュータの登録商標です。

Out lookExpress, MS-DOSはマイクロソフトの登録商標です

## 2. AppleScript

### 2.1. AppleScript **で何が出来るの？**

GUIが基本のMacintoshでは、単純作業の繰り返しである一括処理(バッチ処理)の実現は一般に難しい話です。コマンドラインのあるMS-DOSやUN\*Xでは簡単に行えることですが、Macintoshでは難しいのです。ただし、アプリケーションがAppleScriptに対応していれば話は異なります。DTPなどのアプリケーションでは、多くの画像ファイルのフォーマット変換などの作業をAppleScriptを通して行っていますし、モデリングソフトでもある決まった図形を作るのにAppleScriptを用いたりしています。AppleScriptを用いれば多くのまとまった仕事を一度に行えるのです。それも、特別な開発ツールを用意しなくても行えるのです<sup>注1</sup>。

### 2.2. AppleScript **で出来ることの確認**

アプリケーションがAppleScriptに対応しているかどうかの確認方法は、マニュアルに丁寧に書いてあるものばかりではありません。クラリスメールにもその説明はありません。クラリスメールのメニューにAppleScriptの呼び出しが有るので使えるというのが推測出来る程度です。使用方法が丁寧に説明されていないことがApple Scriptの使い方が分かりづらくなっている1つの要因かもしれません。

しかし本当はとても簡単な方法で、アプリケーションのAppleScriptへの対応具合が分かるのです。それは、Drag&Dropです。クラリスメールを「スクリプト編集プログラム」に

<sup>注1</sup> 開発ツールをつかって、AppleScriptで一つのユーティリティーを作ることも可能です。

[http://macscripter.net/dialog\\_studio.html](http://macscripter.net/dialog_studio.html)や<http://www.facespan.com/>が参考になると思います。

Drag&Dropすれば図2-1の様な用語説明が出ます。

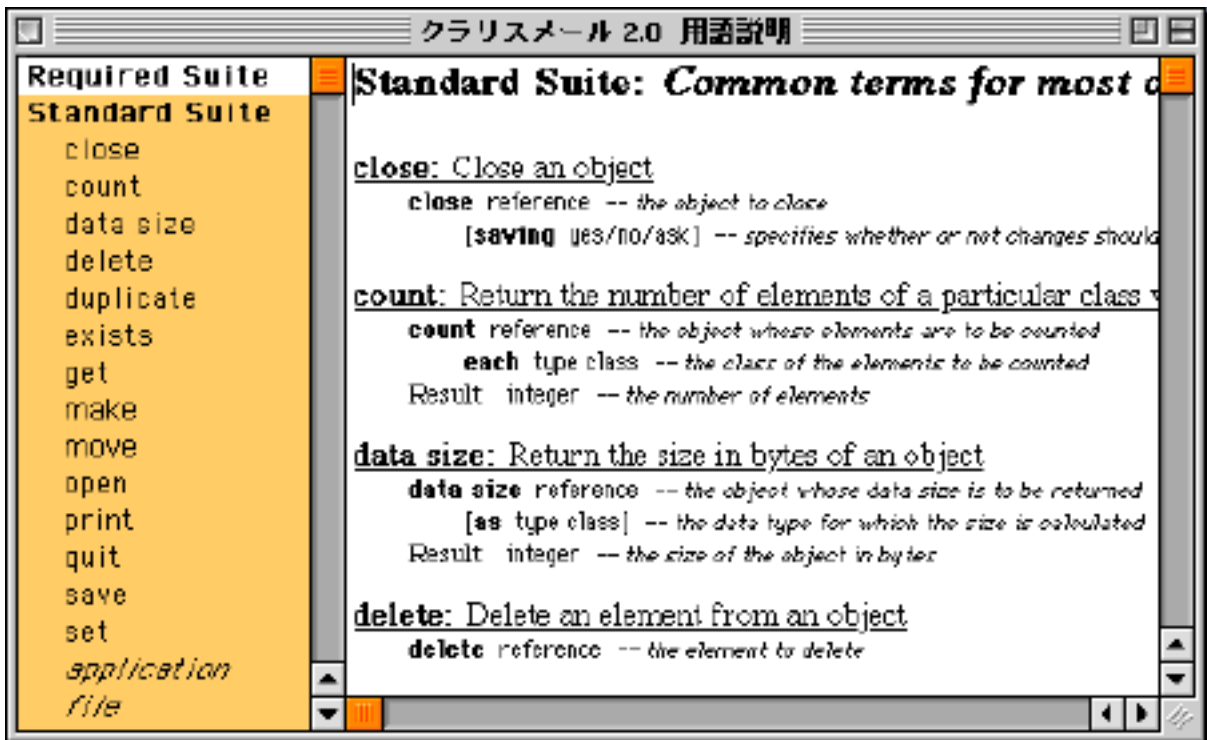


図2-1 クラリスメールのAppleScript機能

アプリケーションの一般的な機能が「Standard Suite」に書いてあり、Emailer(クラリスメールの英語名)の独自の機能が「Emailer Suite」に出ています。アプリケーションによりけりですが、クラリスメールのコマンドの説明は丁寧です。これらをしっかり読めばAppleScriptで行えることが分かります。これらとAppleScriptの基本的な知識があればクラリスメールで自動処理が行えるのです。

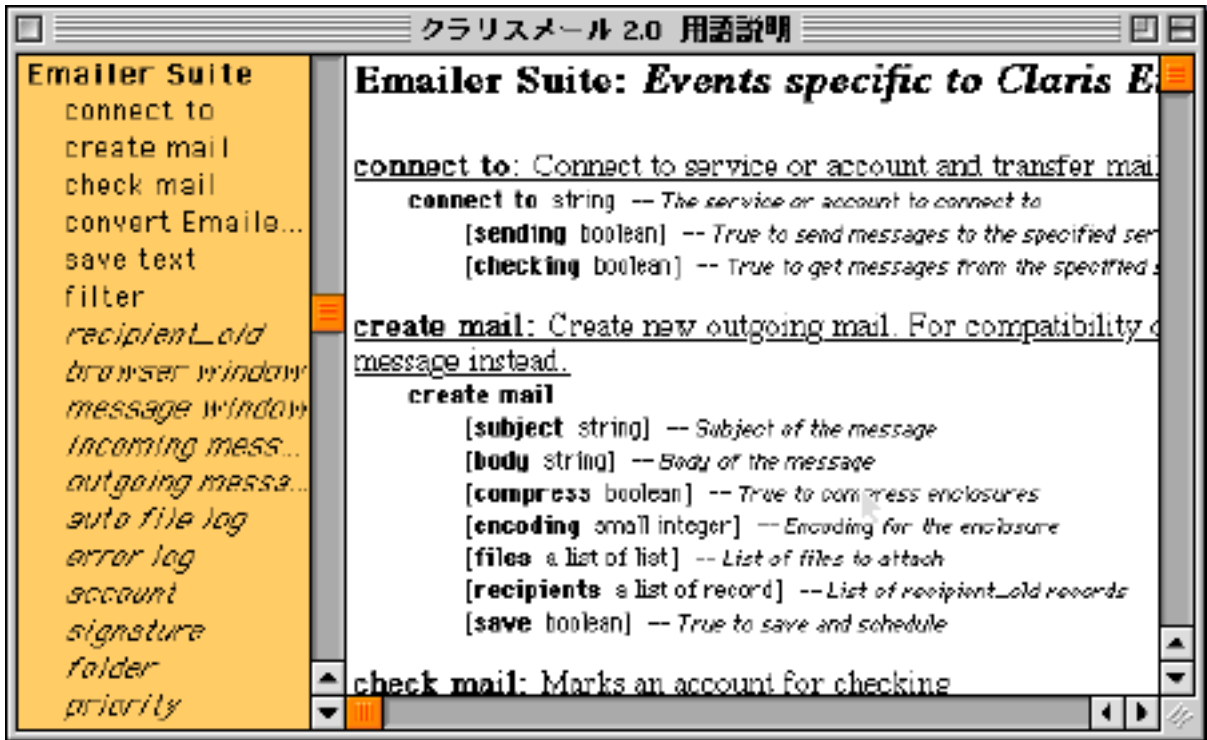


図2-2 クラリスメールのクラリスメールに特化したAppleScript機能

### 3. クラリスメール

#### 3.1. 問題点

大好きな クラリスメールですが、気になっている点が4つあります。

- i) NiftyServeに送信できない。
- ii) Geocitiesに送信できない。
- iii) 受信後送信を選択できない。
- iv) 起動していないと自動巡回はできない。

#### 3.2. Niftyでの問題

1つは、Niftyヘインターネット経由での送信ができないのです。クラリスメールの1つの売りであった、Niftyへのコンピュータ通信での接続では大丈夫です。一時期、その対処方法がNiftyの方で出ていたのですが、今ではサポート対象外になり対処方法もなくなっています。

その方法は、「メールアカウント」のところを「userID@pop.nifty.ne.jp」から、「userID@smtp.nifty.ne.jp」に変更したアカウントで送信することです。とくに、smtp.nifty.co.jpで無くてもにしくても「userID@nifty.ne.jp」でも大丈夫なようです。



図3-1 Niftyへの送信用アカウント

でも残念なことにこのアカウントでは受信は出来ません。

### 3.3. Geocities **での問題**

初めの頃は大丈夫だったのですが、去年から起きたもう1つの問題です。Geocitiesでも、送信できなくなってしまったのです。スパム対策で、前から受信の後に送信という制限は有ったのですが、それに加えメールアドレスで送信しなと送信できなくなってしまったのです。これも同様な対応で対処できます。「メールアドレス」のところを「userID@pop.geocities.co.jp」から、「userID@geocities.co.jp」に変更します。NiftyやGeocitiesの問題は、つまるところ、クラリスメールがポップアカウントとメールアドレスをごっちゃにしてメールを送信している所為ではないかと思います。



図3-1 Geocitiesへの送信用アカウント

Niftyでの対策もGeocitiesへの対策も、送信受信によってアカウントを変える必要があります。受信したメールを返信する際にはアカウントを変えて送信しなければ行けません。これもAppleScriptでなんとかなると思いますが、クラリスメールで送信アカウントの変更は簡単なので、今回は試していません。

### 3.4. スпам対策での問題

Geocitiesでも対策しているスパムメール対策で、受信してからある時間以内に送信しなければならないという制限をメールサービス業の自主規制でユーザーに与えています。クラリスメールでは受信してから送信という設定はありません。しかし、AppleScriptで受信してから送信するように指示すればその制限も問題になりません。それをクラリスメールの「AppleScripts」のフォルダーに入ればクラリスメールのメニューから選ぶことができます。4.1で紹介します。

### 3.5. 自動送受信での問題

出張や忙しさに感けて、毎日メールの送受信ができるとは限らない私なので自動送受信をしています。クラリスメールでも自動送受信が出来るのですが、クラリスメールをずっと起動していなければなりません。ネットワークを介してファイルの共有でアクセスしようとしても、共有先でクラリスメールが起動しているとクラリスメールのデータにもアクセスできません。ですから自動送受信時以外はクラリスメールは起動していて欲しくないのです。これもAppleScriptで解決できます。4.2で紹介します。

## 4. クラリスメール & AppleScript

### 4.1. 受信してから送信

受信してから送信をするスクリプトを説明していきます。まず、アカウントリストを開いて使いたいアカウント名を覚えておきます。

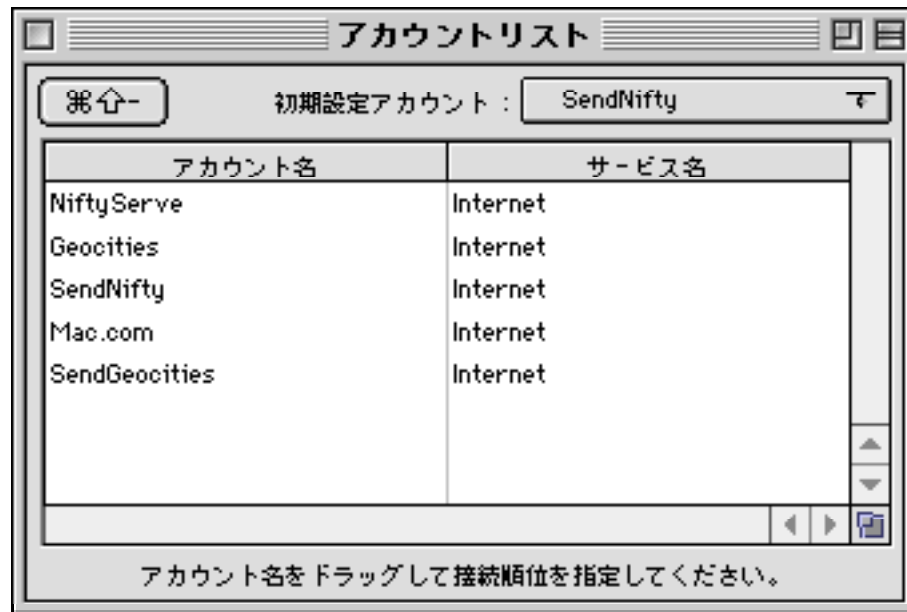


図4-1 アカウントリストの例

そのアカウント名でアプリケーションに送受信を指示します。スクリプトはスクリプト4-1の様に英語っぽい記述で行います。

```
tell application "クラリスメール 2.0 "  
  connect to アカウント名 with checking --受信のみ  
  connect to アカウント名 with sending --送信のみ  
end tell
```

スクリプト4-1 送信してから受信するスクリプト例

tell application "アプリケーション名" ~end tellで括られた部分がそのアプリケーションへの指示となります。これが、AppleScriptでアプリケーションに指示を出すパターンになります。それと、「--」以降がコメント文になります。

私が使っている受信してから送信のスクリプトはスクリプト4-2のとおりです。

```
tell application "クラリスメール 2.0 " -- アプリケーションを指定
  connect to "NiftyServe" with checking -- アカウント"NiftyServe"で受信
  connect to "SendNifty" with sending -- アカウント"SendNifty"で送信
  connect to "Geocities" with checking -- アカウント"Geocities"で受信
  connect to "SendGeocities" with sending -- アカウント"SendGeocities"で送信
  connect to "Mac.com" with checking -- アカウント"Mac.com"で受信
end tell
```

スクリプト4-2 送信してから受信するスクリプト例

私の場合、前述の理由で送信用のアカウントと受信用のものを分けなければなりませんので、with checking と with sending でアカウントが違いますが同じアカウントで送受信する場合は同じで構いません。プログラム自体は全然汎用性の無いもので、ただ思ったことを連ねただけです。ただ思ったことの実現を簡単に済ませられるのがスクリプト良さと思っています。逆に不必要に時間を取る必要もないと思います。

このスクリプトを、「スクリプト編集プログラム」でコンパイル済みスクリプトにします。「スクリプト編集プログラム」は「Appleエクストラ」フォルダーに有ると思います。見当たらないようでしたら、検索してみてください。



図4-2 スクリプト編集プログラム

「このスクリプトについて」のところにスクリプトの説明を書きしておくこともできます。それも装飾付きにできるのです。UN\*Xのmanの様に分かりやすく見出しをつけていくこともできます。

スクリプトを入力し終わったら、構文確認ボタンを押しておしてチェックしてみてください

い。エラーが無ければ、図4-3の様に予約語がボールドになり、コメント文はイタリックになります。エラーが出た場合はそのエラーがなくなるまでスクリプトをチェックしてください。



図4-3 スクリプト編集プログラムでの構文チェック

これを「保存」もしくは「実行専用で保存」で保存してください。この二つの違いは再編集可能かどうかです。単に「保存」ですと後で編集できます。通常は「保存」を選ぶのがお勧めですが、今回は「実行専用で保存」で話を進めていきます。



図4-4 実行専用で保存



そうすると、保存する名称とともに保存するフォーマットを聞いてきますのでコンパイル済みスクリプトを選びます。



図4-5 コンパイル済みスクリプトで保存

「スクリプト編集プログラム」の古いバージョンでは、「Classicアプリケーション」や「MacOS Xアプリケーション」はありません。単に「アプリケーション」となっています。

保存場所は、「クラリスメール 2.0 フォルダ」->「クラリスメールファイル」->「AppleScripts」の中に保存してください。そうすることで、クラリスメール に認識されます。

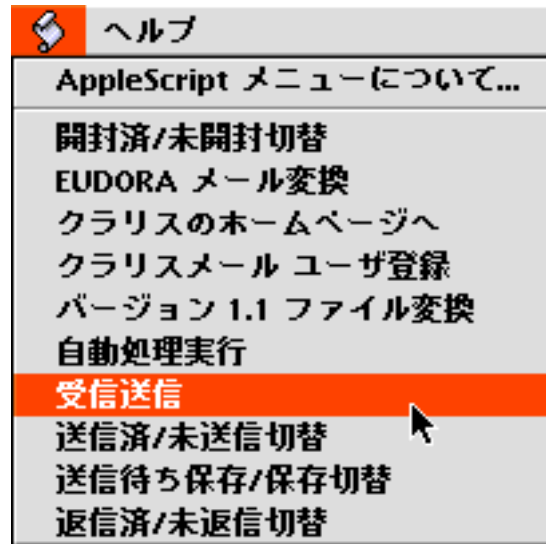


図4-6 AppleScriptメニュー

次の起動の際にクラリスメールのAppleScriptのメニュー(Sをモチーフにしたアイコンがそれです)に受信送信という項が出来ますのでそれを選べば先程のスクリプト通りに処理がされます。

#### 4.2. 自動送受信

スクリプト4-4に、自動での送受信する例をあげます。スクリプトのざっとの説明ですが、「property」のところで「TimeToSleep」の定数定義をしています。その「TimeToSleep」は、一番最後の「on idle~end idol」の手続きで使っています。ここで、このスクリプトのアイドルングをしています。「idle」手続きの呼び出しが、二つめのrepeat文のなかの「idle of me」です。このrepeat文では、23:05と6:05の時刻になればループを抜ける様にしています。そのループをアイドルングしながら回しています。4行目に「ツ」という文字がありますが、ゴミではなくちゃんとした行を変える記号<sup>注2</sup>です。

今回は、AppleScriptを一つのアプリケーションとして使い、このスクリプトからクラリスメールを立ち上げて、終了するという行を行います。それを行うのが、「activate」と「quit」です。今回は、タイムアウトを指定しておきます。この指定が無い場合は、タイムアウトは60秒になります。今回は長くしたいだけなので適当に「with timeout of 9999 seconds」とします。

```
property TimeToSleep : 15

on function AutoConnect()
    repeat until ((time of (current date)) / 60 = (60 * 23 + 5) ツ
        or ((time of (current date)) / 60 = (60 * 6 + 5))
    end repeat
    with timeout of 9999 seconds
        -- アプリケーションをフルパスで指定
        tell application "QuadraData:クラリスメール 2.0 フォルダ:クラリスメール 2.0 "
            activate
            connect to "NiftyServe" with checking -- アカウント"NiftyServe"で受信
```

<sup>1</sup> 「スクリプト編集プログラム」でoption+returnを押せば入力できます。本来の姿は「↵」であり、漢字フォントでは文字化けしているだけです。

```
connect to "SendNifty" with sending -- アカウント"SendNifty"で送信
connect to "Geocities" with checking -- アカウント"Geocities"で受信
connect to "SendGeocities" with sending -- アカウント"SendGeocities"で送信
connect to "Mac.com" with checking -- アカウント"Mac.com"で受信
    quit
end tell
end timeout
end AutoConnect

on idle
    AutoConnect()
    return TimeToSleep
end idle
```

スクリプト4-3 自動送受信の例

アプリケーション起動時に「クラリスメール 2.0 はどこですか」と聞かれるのも嫌なので、アプリケーションはフルパスで指定しました。処理待ちのルーチンがきれいではありませんが、気が向けば直すこととします。

今回はアプリケーションにして保存です。選択する保存フォーマットは「classic アプリケーション」として保存します。もしくは、バージョンの古い「スクリプト編集プログラム」では単に「アプリケーション」として保存します。このとき、「初期画面を表示しない」にしておいて下さい。さもないと、起動時に処理を始めていいかの確認のダイアログがでます。



図4-7 アプリケーションで保存

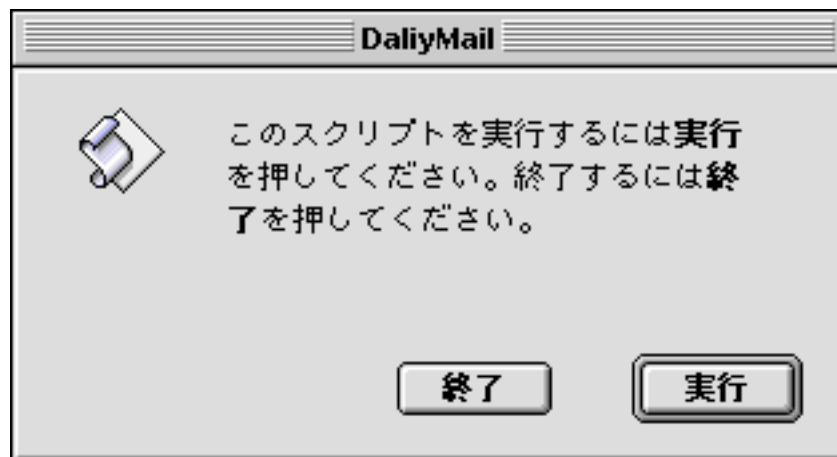


図4-6 初期画面の表示

そして保存した今回のファイルは、起動項目に入れました。これで、Macintoshを起動すればいつでもスクリプトが開始されます。

このレポートでは送受信はネットワークに接続された機器を前提にしています。ネットワークといっても、ルーター付きTAでも構いません。PPPを使う場合は、PPPの接続処理のスクリプトが必要になります。今回は、割愛します。

## 5. 終わりに

AppleScriptを使うことでアプリケーションの不満や問題の解決が行えます。クラリスメールも出た頃から使っているのもう5年は使いつづけています。クラリスのバージョンが2.0になったのは1997年ですので、結構古いソフトです。それでも、AppleScriptと組み合わせるとまだまだ使いつづけれそうです。みなさんも、自分の持っているソフトのAppleScriptの対応具合をみて少し工夫したソフトの使い方を試してみてくださいか？

それから、文書内に間違いがありましたらご連絡ください。不明な点があった場合も、増補の際の参考にしたいと思いますので気軽にお問い合わせください。

### ◆ 参考文献

こばやしゆたか, AppleScriptリファレンス制作委員会著, "AppleScriptリファレンス", 1999.12.26, ソフトバンクパブリッシング(株)

### ◆ Fogcityについて

ここでレポートした多くの情報は、クラリスメールの開発元のFogCityから得ています。ここからEmailer(クラリスメールの英語名)や他のメールソフトのBBSのリンクがあります。一度覗いてみてはどうでしょうか？

Fogcityのサイト  
<http://www.fogcity.com/>

Emailerのメーリングリスト  
<http://www.skytouch.com/lists/emailer-talk.html>